釧路市立北中学校「学校だより」

北　魂

令和７年（2025年）12月29日発行　VOL 39

教務主任の役割

釧路市立北中学校長　冨　田　直　樹

26日（金）に２学期終業式が行われました。８月下旬から始まった長い２学期でしたが、生徒、教職員の頑張り、そして、保護者や地域の皆さんの応援により、大きな事件や事故がなく無事に２学期を終えることができました。本当にありがとうございました。学校は現在、冬季休業期間に入っています。生徒たちは１月12日（月）まで、家庭や地域を中心に生活することになります。保護者や地域の皆さんには、冬季休業期間中における生徒の成長を支えていただけたらと思います。よろしくお願いします。

さて、今年最後の学校だよりですが、校長の学校経営、学校づくりのキーパーソンである「教務主任」についてお伝えしたいと思います。

校長という立場で仕事をする上で、教頭以外でよく言葉を交わす相手は誰か。その一人に「教務主任」がいます。本校においては、熊谷亮太教諭がその役割を担ってくれています。教育活動の実務の中心でありながら、学校全体を見渡す。教務主任は校長や教頭に近い立場であり、個人的には管理職の一人として捉えています。

教務主任について、学校教育法施行規則44条４項において「教務主任は、校長の監督を受け、教育計画の立案その他の教務に関する事項について連絡調整及び指導、助言に当たる」と記されています。教務主任は、校長の方針を踏まえて、教頭とともに教育活動を動かす存在であると法的にも定められています。

熊谷教諭に教務主任の業務の感想について聞いたことはありませんが、おそらく「教務主任は裁量が大きくやりがいのある仕事ですよ。管理職よりも先生方や子どもたちに近いところにいながら、教育活動全体を前へ押し出せますから」というような感想が返ってくるのではないかと勝手に想像しています。私は教務主任を経験せずに校長になりましたが、その支えの大きさを痛感したことは何度もあります。とりわけ、出張等で学校を離れるとき、教職員への声かけ、会議の進行及び校長の考えの補足、放課後の見回りなど、校長が安心して外に出られるのは、教務主任が実務を支えているからです。

教務主任の役割は、その日その場の調整力だけにありません。変化に応じた対策を講じることができる設計力や判断力があってこそ、校長は安心して全体の舵取りに集中できます。校長を対象とした研修会において講師が「時代の変化に対応することが、教務主任の流行である。本質を忘れることなく、新しく変化していくものを積極的に取り入れていくことが教務主任に求められている」と述べていました。

例えば、教育課程の実施計画、授業時数の調整、行事・面談期の時間割設計、会議体の見直しなどは、その最たる場面です。「この期間に行事を入れると子どもと教職員双方の負担はどうなのか」「この会議は本当に必要か」などといった実務の小さな兆しを丁寧に捉え、学校の方針を踏まえて手立てを提案できる設計力や判断力こそが教務主任の価値を高めます。次年度以降、新しい学習指導要領の全面実施に向けた様々な取組が始まります。教育活動の質を左右する教務主任の重要性が増していくことは必至です。

教務主任の活躍に期待して今年の学校だよりを閉じたいと思います。保護者、地域の皆さん、４月から本当にお世話になりました。よいお年をお迎えください。